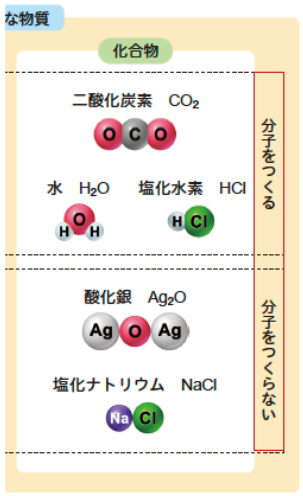
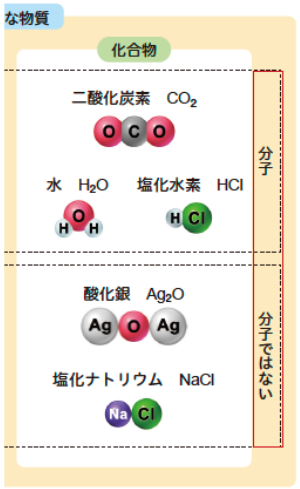
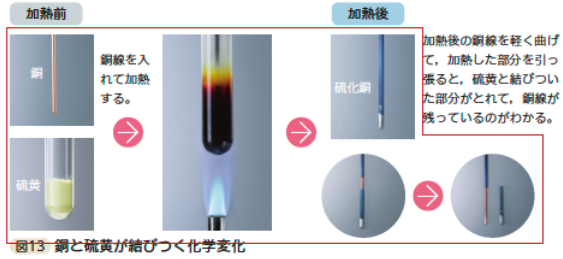
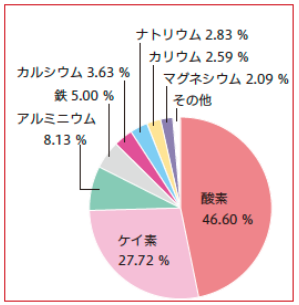
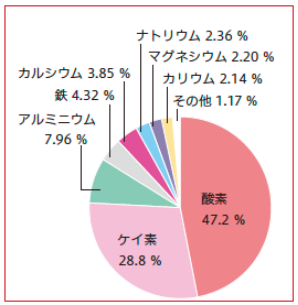
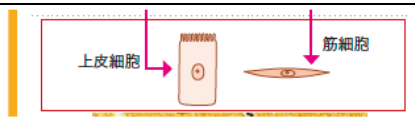
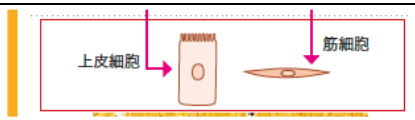
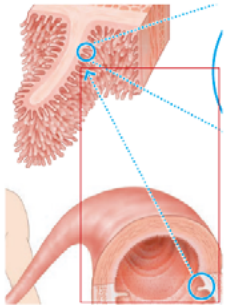
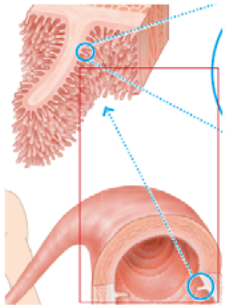
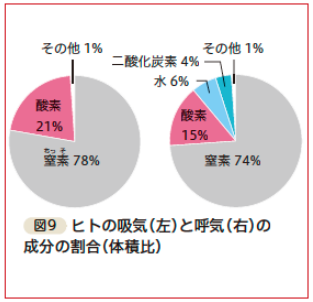
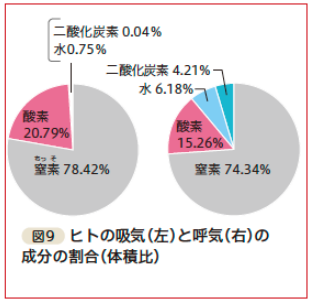
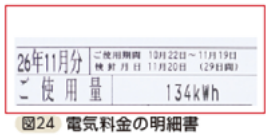
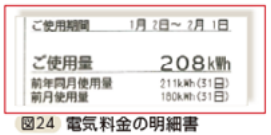
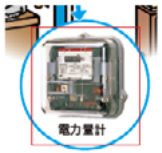
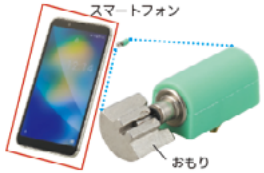
中学校理科教科書「理科の世界」 訂正表

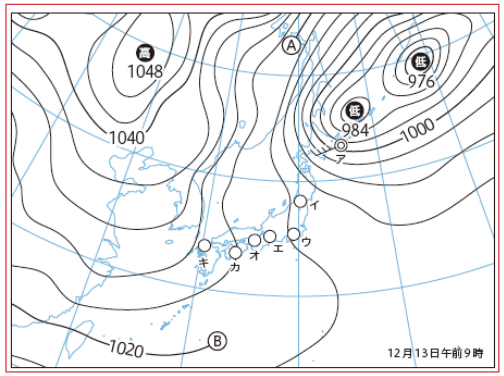
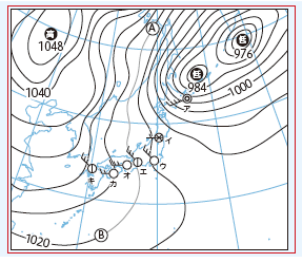
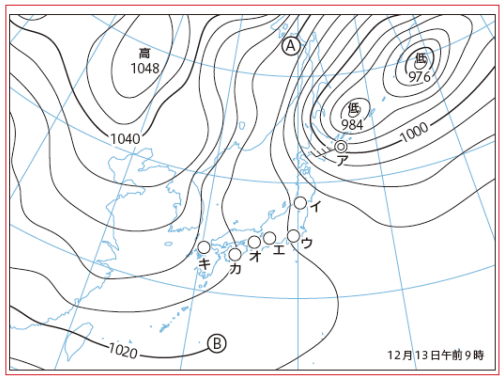
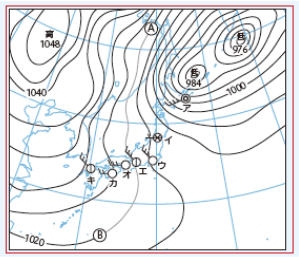
＜ 2年 ＞

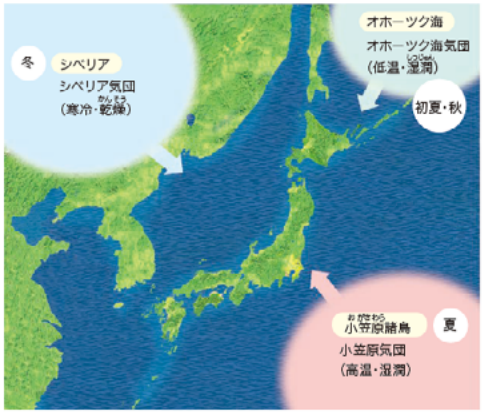
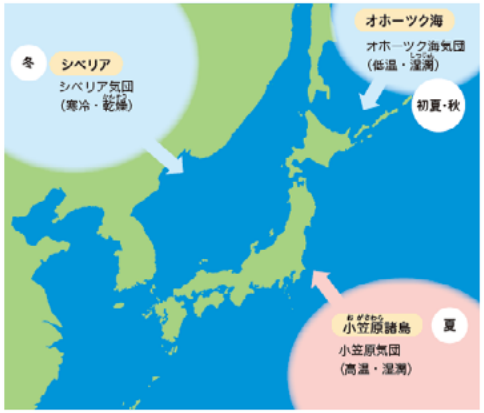
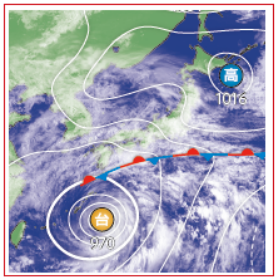
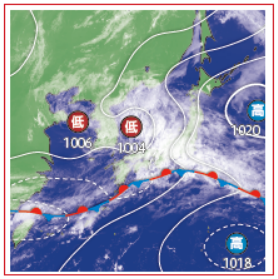
修正箇所	原文	修正文	理由
p. 9 下左 ※p. 58 も同様			情報更新のための変更
p. 23 14 行 ※p. 25、p. 74 も同様	2019 年までに	2023 年までに	情報更新のための変更
p. 29 図 17			写真の許諾期間終了による変更
p. 32 中左囲み	元素は「原子の分類」を表し，	元素は「原子の種類」を表し，	p. 23 14 行の表現に揃えるための変更
p. 33 図 19			物質の分類についてよりわかりやすい表現にするための変更
p. 53 図 13			より適切な写真にするための変更

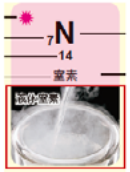
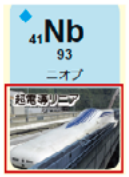
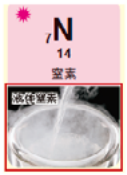
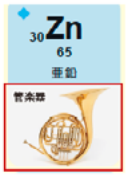
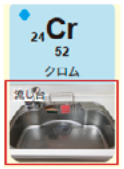
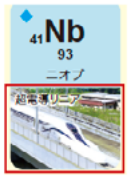
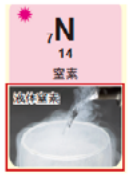
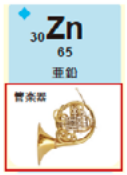
修正箇所	原文	修正文	理由
p. 79 上右			出典の変更
p. 79 9 行	カリウムK，マグネシウムMgと続く。	マグネシウムMg，カリウムKと続く。	
p. 79 中右			写真の許諾期間終了による変更
p. 84 上段			写真の許諾期間終了による変更
p. 93 図 6			より適切な図にするための変更
p. 100 図 4	泡を底に開けた穴から追い出す。	泡を底に空けた穴から追い出す。	表記を統一するための変更
p. 111 2 行	根の表面積★1も広くなり，	根の表面積★1も大きくな	p. 125 の吹き出しの表現に揃えるための変更
p. 121 8 行、★1	門脈★1に入り，　★1：消化管の毛細血管から養分の含んだ血液を集めて	門脈★2に入り，　★2：消化管の毛細血管から養分の含んだ血液を集めて	側注を見開きで通し番号にするための変更

修正箇所	原文	修正文	理由
p. 121 図 5			矢印が指示している範囲をわかりやすくするための変更
p. 124 図 9	 図9 ヒトの吸気(左)と呼気(右)の成分の割合(体積比)	 図9 ヒトの吸気(左)と呼気(右)の成分の割合(体積比)	出典の変更
p. 152 左下			文章と合わせるための変更
p. 183 下囲み	 超伝導の応用例(2027 年開業予定のリニア中央新幹線) 削除	 超伝導の応用例(リニア中央新幹線)	情報更新のための変更
p. 189 図 24	 図24 電気料金の明細書	 図24 電気料金の明細書	情報更新のための変更
p. 191 中右			情報更新のための変更

修正箇所	原文	修正文	理由
p. 192 上段			情報更新のための変更
p. 198 図 8			情報更新のための変更
p. 207 図 17、★ 1	図17 発光ダイオードのつなぎ方と光り方[★1] ★1：発光ダイオード(→ p.162)	図17 発光ダイオードのつなぎ方と光り方[★2] ★2：発光ダイオード(→ p.162)	側注を見開きで通し番号にするための変更
p. 215 30 行、★2	[★2]た。電気の＋と ★2：たこの実験は危険なので決	[★3]た。電気の＋と ★3：たこの実験は危険なので決	側注を見開きで通し番号にするための変更
p. 239 中左、右下表 p. 239 右下	ヘクトパスカル(hPa) 地上10mの高さでの風速(m/s)[★4] ★4：メートル毎秒と読む。	ヘクトパスカル(hPa)[★4] 挿入 地上10mの高さでの風速(m/s)[★5] ★4：p.251で学習する。 挿入 ★5：メートル毎秒と読む。	単位の意味をわかりやすくするための変更
p. 239 中左	1気圧=1013hPa	1気圧=約1013hPa 挿入	より適切な表現にするための変更
p. 240 表 1 上 p. 240 表 1 右下 ※p. 239、p. 292 も同様	乾球と湿球との目盛りの読みの差(℃)[★1] 0 0.5 1 1.5 2 2.5 3 3.5 4 4.5 5 5.5 6 6.5 7 7.5 8 8.5 9 9.5 10 乾球を20℃，読みの差を5℃として，表から湿度を求める。	乾球と湿球との目盛りの読みの差(℃)[★1] 0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0 5.5 6.0 6.5 7.0 7.5 8.0 8.5 9.0 9.5 10.0 乾球を20℃，読みの差を5.0℃として，表から湿度を求める。	乾湿計用湿度表の小数点以下の桁数を揃えるための変更

修正箇所	原文	修正文	理由
p. 245 16–17 行	気象レーダーは，電波を利用して地上付近の降水域の面的な広がりと降水の強さを観測する。 地上の降水量，風（風向，風速），気温，日照時間，積雪の深さは，全国約1300か所にある自動気象観測装置で観測し，データを観測センターに集めている。これを「アメダス（AMeDAS）[★1]：地域気象観測システム」という。 ※関連して、レイアウトを変更	気象レーダーは，電波を利用して地上付近の降水域の面的な広がりと降水の強さを観測する。 地上の降水量などは，全国にある自動気象観測装置で観測し，データを観測センターに集めている。これを「アメダス（AMeDAS）[★1]：地域気象観測システム」という。降水量は約1300か所で観測しており，このうち約840か所では，降水量に加えて風向・風速，気温，日照時間を，約330か所では，積雪の深さも観測している。	より適切な表現にするための変更
p. 251 2–5 行 p. 290 右 11–13 行	いう。気圧はあらゆる方向から同じ大きさで加わる。気圧は，1013 hPaが標準の気圧と決められており，これを1気圧という（1 hPa=100 Pa）。図7のように，気圧は地表が最も高く，上空になると気圧は低くなる。 地球の大気による気圧（大気圧）は，1013 hPaを標準の気圧と決め，これを1気圧という。上空へ行くほど低くなる。	いう。気圧はあらゆる方向から同じ大きさで加わる。海面での[挿入]気圧は約1013 hPaで，これを1気圧という（1 hPa=100 Pa）。海面付近の気圧が最も高く，[挿入]図7のように，高い場所ほど気圧は低くなる。 海面での気圧は約1013 hPaで，これを1気圧という。海面付近の気圧が最も高く，高い場所ほど気圧は低くなる。	より適切な表現にするための変更
p. 253 囲み p. 254 上囲み	 	 	中心の気圧をわかりやすくするための変更
p. 261 9–10 行	さに相当する分だけ大気の質量が減るので気圧は低くなる。菓子の袋は，高いところへ行けば行くほど，まわりの気圧が低くなり，中の気体が膨張して膨らむ（図8）。	さに相当する分だけ大気の質量が減るので気圧は低くなる。菓子の袋は，まわりの気圧が低くなると中の気体の体積が大きくなるため，高いところへ行くほど膨張する（図8）。	よりわかりやすい表現にするための変更

修正箇所	原文	修正文	理由
p. 264 図 11	 簡易真空容器の中に携帯気圧計と風船を入れ，空気が膨張して，気圧が低下すると，風船が膨らむことを確かめる。 図11 気圧と体積の関係を調べる実験	 簡易真空容器の中に気圧計と風船を入れる。空気を抜くと，中の気圧が低下して，風船が膨らむ。 図11 気圧と体積の関係を調べる実験	容器内の気圧が低下する要因をより明確にするための変更
p. 277 図 5			日本列島の形をより正確にするための変更
p. 278 図 7	 2018年6月10日午前9時	 2022年6月15日午前9時	梅雨の天気図としてより典型的なものにするための変更
p. 290 右 10–11 行	□ 単位面積 1 m² 当たりに垂直に加わる力の大きさ。単位はパスカル(Pa)。 □ 大気による圧力。単位はヘクトパスカル(hPa)。	□ 単位面積 1 m² 当たりに垂直に加わる力の大きさ。単位 パスカル (Pa) □ 大気による圧力。単位 ヘクトパスカル (hPa)	p.224と単位の示し方を揃えるための変更
p. 306 中段	指を離しながら，	指を放しながら，	表記を統一するための変更

修正箇所	原文	修正文	理由
p. 316 右上、中 p. 317 上、中	    	     	写真の許諾期間終了による変更、および、情報更新のための変更
p. 316 中			写真の許諾期間終了による変更、および、学術用語集の表現に合わせるための変更